

# 為替相場展望

2012年7月

 株式会社 **日本総合研究所**

調査部 マクロ経済研究センター

<http://www.jri.co.jp/report/medium/publication/>

## 目次

【為替相場概説】	p. 1
◆ドル円、ユーロ相場の回顧	p. 2
◆米FRBの金融政策の現状と見通し	p. 3
◆ECBの金融政策の現状と見通し	p. 4
◆金利差からみた為替相場	p. 5
◆為替需給からみた円相場	p. 6
◆トピックス：円相場はどの程度過大評価されているのか	p. 7
◆ドル円、ユーロ相場の見通し	p. 8
【内外市場データ】	p. 9

◆本資料は2012年7月4日9:00時点で利用可能な情報をもとに作成しています。

◆本資料に関するご照会は、下記あてお願いいたします。

欧米経済・市場動向グループ

井上 肇 (Tel : 03-6833-0920 Mail : inoue.hajime@jri.co.jp)

# 為替相場概説（2012年7月）

## 1. ドル円、ユーロ相場の回顧

### <6月のドル円相場>

月初、低調な米雇用統計を受け77円台まで円高ドル安が進行したものの、米FOMCでFRBが量的緩和拡大を見送ったことから、下旬にかけてドルは80円台を回復。その後も、月末のEU首脳会議での対応策の前進を受け欧州債務不安が薄らぐなか、79円台でドルが底堅く推移。

### <6月のユーロ円相場>

月初、スペインの金融不安の高まりから一時95円台まで円高ユーロ安が進行したものの、再選挙を経てギリシャのユーロ離脱が回避されたことや、月末にはEU首脳会議で債務問題への対応策が進展したことを好感し、101円台までユーロが急反発。

## 2. 米FRBの金融政策の現状と見通し

6月のFOMCでFRBはツイストオペの延長を決定。ツイストオペ延長によるドル円相場への影響は、①FRBのバランスシートの膨張を伴うものではないこと、②残存期間6年以上の国債利回りには低下圧力がかかる一方、残存期間3年以下の国債利回りには上昇圧力がかかること、などから、限定的となる公算。今後の金融政策については、FOMC後の会見でバーナンキ議長がQE3などの追加緩和の可能性に言及する一方、非標準的措置を安易に行うべきではないとも述べており、追加緩和実施には、引き続き高いハードル。

## 3. ECBの金融政策の現状と見通し

6月の理事会でECBは、政策金利を据え置くことなどを決定。もっとも、理事会後の会見でドラギ総裁は、今後の追加緩和の可能性に言及。足許、ユーロ圏のインフレ率が低下傾向にある一方、6月のECB理事会以降もユーロ圏景気の下振れを示す経済指標が散見されており、ECBは7月以降の会合で利下げに踏み切る公算。長期流動性資金供給(LTRO)や周辺国の国債購入については、見送られる公算ながら、市場の緊張が一段と高まった場合、ECBによる一定の側面支援が行われる可能性も。

## 4. 金利差からみた為替相場

先行きの米金利は、米国景気の緩やかな回復基調が維持される一方、FRBの超低金利政策の長期化が見込まれるなか、狭いレンジでの推移が続く見通し。米金利と高い相関を有するドル円相場も、総じて狭いレンジでの推移を余儀なくされる見通し。2013年春以降、米国景気の下振れリスクが後退し、米金利が緩やかにレンジを切り上げる展開となれば、ドルが上振れしやすい地合いに。

先行きの独金利は、今後も債務問題への不安が断続的に高まる展開が予想されるほか、ECBの低金利政策の長期化が見込まれることから、低水準での推移が続く見通し。ユーロ相場は、独金利の低下余地が限られているため、一方的なユーロ安は進行しにくいとみられる一方、独金利の持続的な上昇も見込み難いなか、ユーロの本格的な反転上昇も期待薄。

## 5. 為替需給からみた円相場

円を取り巻く需給環境をみると、①投機筋の円買いポジションが一方的に拡大するリスクは小さいこと、②わが国の貿易赤字が定着しつつあること、③対外直接投資が高水準で推移していること、等から、引き続き一方的な円高進行の公算は小。もっとも、低水準の内外金利差や欧州債務危機再燃懸念の残存などを背景に、対外証券投資や円キャリートレードが低調にとどまるとみられるなか、本格的な円安進行も期待薄。

## 6. トピックス：円相場はどの程度過大評価されているのか

6月12日、IMFは対日協議後の声明のなかで、「円の為替レートは中期的観点から幾分過大評価」と言及したものの、円の過大評価の度合いについては具体的な数字は示されず。そこで円はどの程度過大評価されているのか購買力平価の観点からアプローチ。IMFが算定した2012年のわが国の購買力平価や弊社が試算した1973年基準の購買力平価と比較すれば、足許の円相場は大きく過大評価されている状況。もっとも、一人当たり名目GDPが大きくなるほど実勢為替レートが購買力平価よりも過大評価される傾向。IMF、OECDが算出した購買力平価と一人当たり名目GDPの相関をもとに試算すると、ドル円相場の適正水準はそれぞれ、1ドル=95円、87円程度。試算結果は幅を持ってみる必要があるものの、一人当たり名目GDP規模を勘案すれば、円相場の適正水準は概ね1ドル=90円前後。

## 7. ドル円、ユーロ相場の見通し

### <ドル円相場の見通し>

米国景気の回復基調持続、わが国貿易収支の赤字基調継続、わが国通貨当局の円高回避に向けた強い姿勢、等から、一方的な円高進行の公算は小さい一方、米国の超低金利政策の長期化により、大幅なドル高進行も期待薄。80円を挟んだ円高値圏での推移が長期化する見通し。

### <ユーロ相場の見通し>

債務問題に対する過度な懸念が和らぐなか、短期的にはユーロが上振れしやすい地合い。ユーロ圏景気の悪化が続くほか、債務問題の抜本的な解決が容易でないなか、今後も債務問題への不安が断続的に高まることから、ユーロ安基調に変化はない見通し。

ドル円、ユーロ相場の回顧

米FRBが量的緩和拡大を見送ったことや、欧州債務問題に対する過度な不安が薄らいだことなどを受け、対ドル、対ユーロで円高が一服。

〈6月のドル円相場〉

月初、低調な米雇用統計を受け77円台まで円高ドル安が進行したものの、その後、政府・日銀による円売り介入への警戒感が強まったこと等を受け79円台までドルが反発。中旬は、17日のギリシャの再選挙に市場の関心が向かうなか、総じて小動きとなったものの、20日の米FOMCでFRBがツイストオペを延長する一方、量的緩和拡大を見送ったことから、ドルは80円台を回復。その後、スペインの金融・財政不安などが再び強まるなか、一旦は78円台まで円が強含んだものの、月末のEU首脳会議での対応策の前進を受け欧州債務不安が薄らぐなか、79円台でドルが底堅く推移。

〈6月のユーロ円相場〉

月初、スペインの金融不安の高まりから、一時95円台まで円高ユーロ安が進行したものの、G7電話会議での協調行動確認やECBによる追加金融緩和期待の高まり等を受け100円台までユーロが反発。その後は、ギリシャやスペインの動向を巡り、98円～101円台で一進一退の展開。9日に合意されたスペインの銀行支援策が金融不安払拭には不十分との見方が広がり、一旦98円台までユーロが反落したものの、17日のギリシャの再選挙を経てギリシャのユーロ離脱が回避されたことから、21日にはユーロが101円台まで回復。月末にかけては、スペインの金融・財政不安などが再び強まるなか、98円台までユーロが下落したものの、月末のEU首脳会議で債務問題への対応策が進展したことを好感し、101円台までユーロが急反発。

ドル円相場の推移



(資料)Bloomberg L.P.

ユーロドル相場の推移



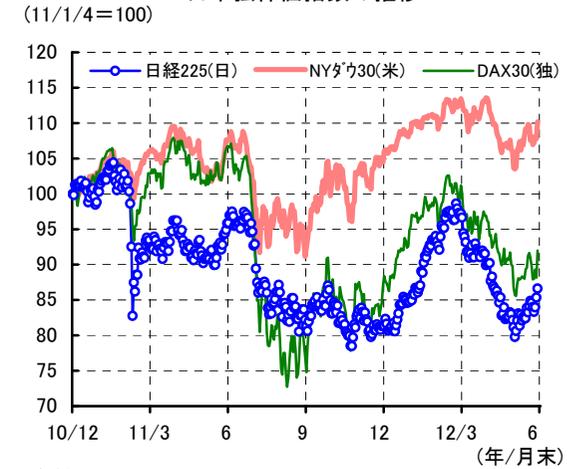
(資料)Bloomberg L.P.

ユーロ円相場の推移



(資料)Bloomberg L.P.

日米独株価指数の推移



(資料)Bloomberg L.P.



ECBの金融政策の現状と見通し

# ECBは金融政策の現状維持を決定。もっとも、ユーロ圏景気の下振れリスクが高まるなか、7月以降の会合で利下げに踏み切る公算。

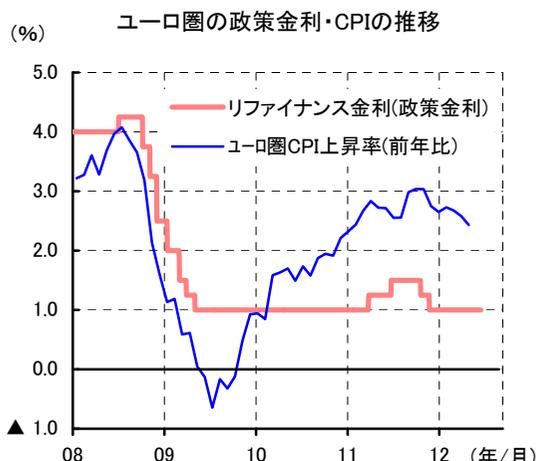
6月6日の理事会でECBは、政策金利を据え置くことなどを決定。理事会後の記者会見でドラギ総裁は、政策を変更しなかった理由として、ECBスタッフの経済見通しに大きな変更がなかったことを指摘したものの、景気の先行きについては「下振れリスクが高まっている」ことを強調。また、今回の理事会で数名のメンバーが利下げを主張したことを明らかにしたほか、「必要となれば行動する用意がある」などと発言し、今後の追加緩和の可能性に言及。

足許、ユーロ圏のインフレ率が低下傾向にある一方、6月のECB理事会以降もユーロ圏景気の下振れを示す経済指標が散見されており、ECBは7月以降の会合で利下げに踏み切る公算。

一方、長期流動性資金供給(LTRO)については、ECBによる過去2回の長期流動性資金供給の効果もあり、銀行間の取引金利が低位で安定しているほか、ドラギ総裁が「他の機関による行動の欠如を金融政策が穴埋めすべきではない」と発言していることを踏まえれば、追加の実施は見送られる公算。

周辺国の国債購入についても、EU首脳会議で欧州安定メカニズム(ESM)を通じた国債購入が合意されるなか、見送られる公算。

もっとも、EUやユーロ圏各国の政策対応には中長期的な対策も多く、必ずしも即効性が期待できるものばかりではないことから、市場の緊張が一段と高まった場合、ECBによる一定の側面支援が行われる可能性も。

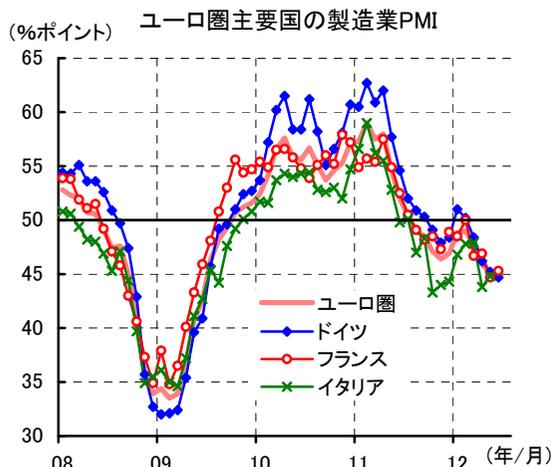


(資料)Eurostat, ECB  
(注)CPIは、Harmonised Index of Consumer Prices。

ECBスタッフの経済見通し

		2012年	2013年
実質GDP成長率	今回	▲0.5~+0.3	+0.0~+2.0
	(6月)	<▲0.1>	<+1.0>
	前回	▲0.5~+0.3	+0.0~+2.2
インフレ率(HICP)	今回	+2.3~+2.5	+1.0~+2.2
	(6月)	<+2.4>	<+1.6>
	前回	+2.1~+2.7	+0.9~+2.3
	(3月)	<+2.4>	<+1.6>

(資料)ECB  
(注)< >内はECBスタッフの見通しレンジの分布が左右対称と仮定した場合の中央値。



(資料)Markit



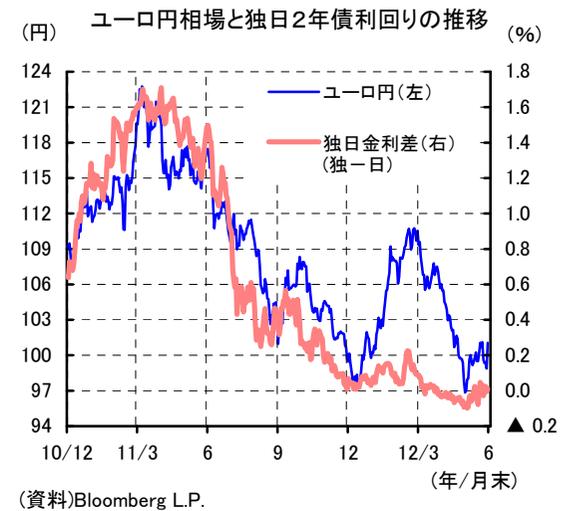
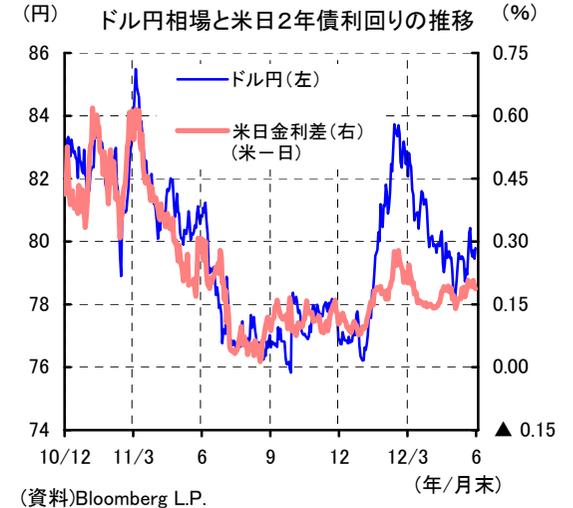
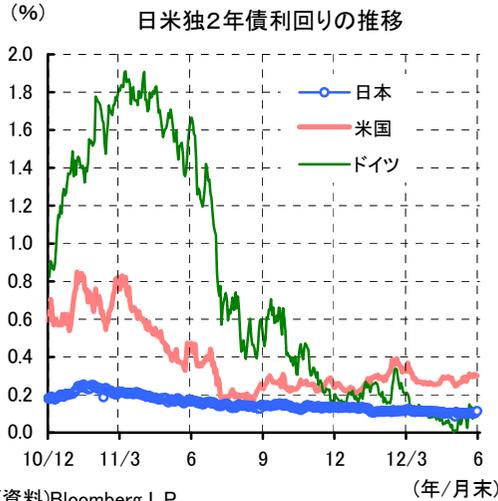
(資料)ECB, Bloomberg L.P.  
(注)EURIBOR-OISスプレッドとは、EURIBOR(3か月物欧州銀行間取引金利)とOIS(政策金利と固定金利を交換する金利(3か月物))の格差のことで、銀行間のカウンターパーティーリスクを示す指標。

ドル円は、狭いレンジでの推移が続く見通し。ユーロは、一方的なユーロ安は進行しにくくなっている一方、本格的な反転上昇も期待薄。

6月の米2年債利回り(以下、米金利)は、月初、低調な米雇用統計を受けたFRBによる追加金融緩和観測の高まりから、低下したものの、その後は、FRBがツイストオペを延長する一方、量的緩和拡大を見送ったことなどから、緩やかに上昇。

先行きの米金利は、米国景気の緩やかな回復基調が維持される一方、FRBの超低金利政策の長期化が見込まれるなか、狭いレンジでの推移が続く見込み。このため、米2年債利回りと高い相関を有するドル円相場も、総じて狭いレンジでの推移を余儀なくされる見通し。ちなみに、足許のドル円相場の80円近傍という水準は、過去1年の日米金利差に見合っており(79.9±2.6円(注))、同水準を中心とした推移が続く見通し。2013年春以降、米国景気の下振れリスクが後退し、米金利が緩やかにレンジを切り上げる展開となれば、ドルが上振れしやすい地合いに。

6月の独2年債利回り(以下、独金利)は、スペインでの金融不安の高まりを受け、1日にマイナス金利となったものの、その後は債務問題への過度な不安が和らいだことから、金利は上昇。先行きの独金利は、今後も債務問題への不安が断続的に高まる展開が予想されるほか、ECBの低金利政策の長期化が見込まれることから、低水準での推移が続く見通し。ユーロ相場は、独金利の低下余地が限られているため、一方的なユーロ安は進行しにくくなっているとみられる一方、独金利の持続的な上昇も見込み難いなか、ユーロの本格的な反転上昇も期待薄。

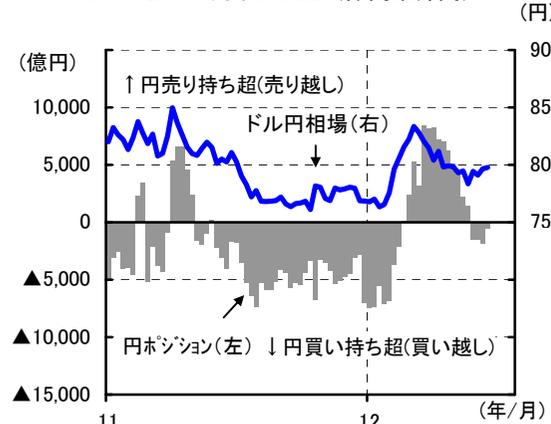


## 円を取り巻く需給環境からは、引き続き一方的な円高進行の公算は小。

円を取り巻く需給環境からは、引き続き一方的な円高進行の公算は小。第1に、投机筋の動向を示すIMM通貨先物取引（非商業部門）では、6月入り後、円ポジションが円売り持ち超から円買い持ち超に転じたものの、その後は円買いポジションが低水準で推移。今後も欧州債務問題を背景としたリスク回避の動きが強まる可能性はあるものの、円とともにドルも選好されやすくなっており、円買いポジションが一方的に積み上がるリスクは小。第2に、5月のわが国貿易収支（原数値）は、▲9,104億円と3ヵ月連続の赤字。年初累計では約▲3兆円の貿易赤字を記録。新興国景気の回復の遅れなどに伴い輸出の低迷が続く一方、原発停止に伴う火力発電用燃料需要の増加等が輸入を押し上げており、貿易赤字が定着しつつある状況。所得収支黒字に支えられ、経常黒字は維持されるとみられるものの、経常黒字幅が大幅に縮小するなか、円高圧力は引き続き限定的となる公算大。第3に、対外直接投資は引き続き高水準で推移。海外市場の成長期待等から、今後も投資が急減する公算は小。

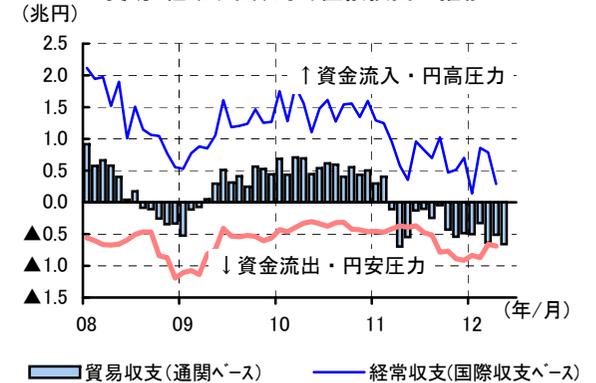
もっとも、本格的な円安進行も期待薄。世界的な金融緩和の動きを受けた海外との金利差縮小や、①欧州債務危機の再燃懸念、②世界的な景気減速、等を受けた投資家のリスク許容度低下を背景に、対外証券投資や円キャリートレードが低調に推移。当面、低水準の内外金利差や欧州債務危機再燃懸念の残存などが投資意欲を抑制し続ける公算。

シカゴIMM・円ポジション(非商業部門)



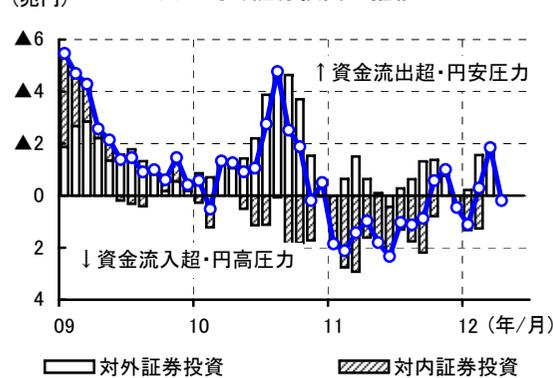
(資料)米CFTC  
(注)直近値は6/26。

貿易・経常収支、対外直接投資の推移



▲0.5  
▲1.0  
▲1.5  
●貿易収支(通関ベース) ●経常収支(国際収支ベース)  
●対外直接投資  
(資料)財務省、日銀  
(注)貿易収支、経常収支は季調値、対外直接投資は再投資収益を除いた原数値の6ヵ月移動平均値。

ネット対外証券投資の推移



▲6  
▲4  
▲2  
●対外証券投資 ●対内証券投資  
●ネット対外証券投資  
(資料)財務省、日銀  
(注)いずれも3ヵ月移動平均値。ネット対外証券投資は、対外証券投資から対内証券投資を引いたもの。

円名目実効為替レートと外銀本支店勘定(資産)



(資料)日銀

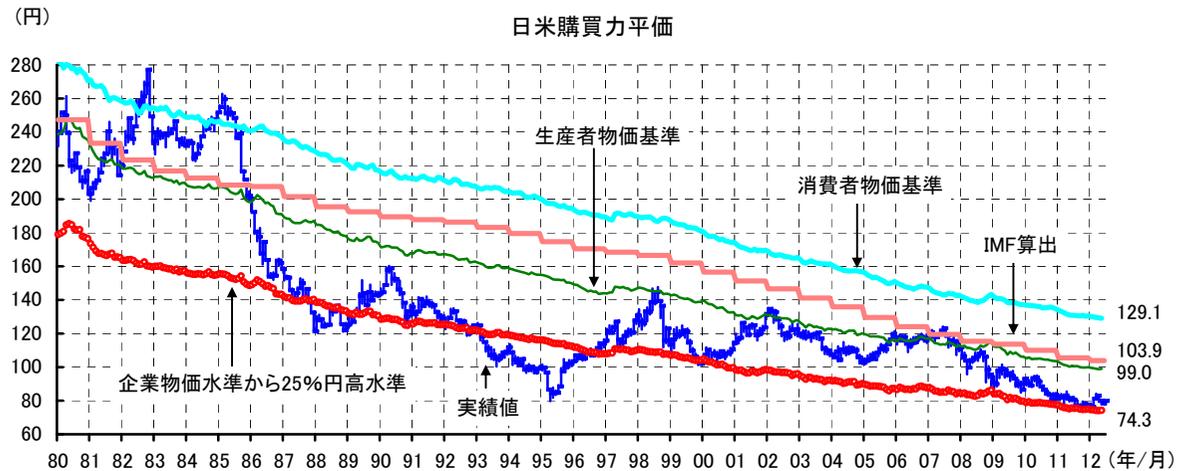
トピックス: 円相場はどの程度過大評価されているのか

一人当たり名目GDPが大きくなるほど実勢為替レートが購買力平価から乖離する傾向を勘案すれば、円相場の適正水準は概ね1ドル=90円前後。

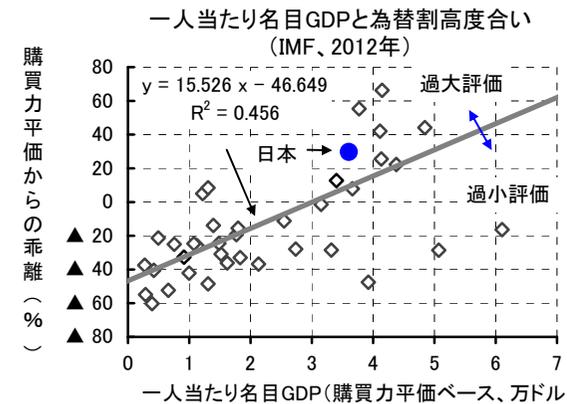
6月12日、IMFは対日協議後の声明のなかで、「円の為替レートは中期的観点から幾分過大評価」と言及。これを受けて、ドル円相場が円安方向に振れる場面も。もっとも、円の過大評価の度合いについては具体的な数字は示されず。そこで、円はどの程度過大評価されているのか購買力平価の観点からアプローチ。

IMFが今年4月に発表した世界経済見通しでは、2012年のわが国の購買力平価を1ドル=103.90円と想定。これをIMFの想定する円相場の適正水準とすれば、足許のドル円相場との乖離は24円程度となり、「幾分」過大評価どころか、大きく過大評価されている状況。弊社が試算した1973年を基準とした購買力平価と比較しても、足許のドル円相場は円高方向に大きく過大評価されているという結果。

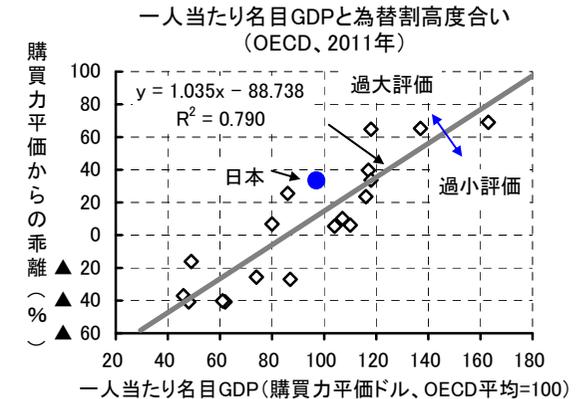
もっとも、一人当たり名目GDPが大きくなるほど実勢為替レートが購買力平価よりも過大評価される傾向にあることから、一人当たり名目GDPが世界で上位に位置するわが国の通貨がある程度過大評価されることはやむを得ない面も。IMF算出の購買力平価と一人当たり名目GDPの相関をもとに試算すると、ドル円相場の適正水準は、1ドル=95円程度。同様に、OECD算出の購買力平価と一人当たり名目GDPの相関をもとに試算すると、1ドル=87円程度。試算結果は幅を持ってみる必要があるものの、一人当たり名目GDPが大きくなるほど実勢為替レートが購買力平価から乖離する傾向を勘案すれば、円相場の適正水準は概ね1ドル=90円前後。この観点からすれば、IMFの円の為替レートは中期的観点から幾分過大評価されているという判断は概ね同意できるもの。



(資料)日銀、総務省、米労働省、IMFをもとに日本総研作成  
(注)消費者物価、生産者物価基準の購買力平価は、1973年を基準にして日本総研が試算。



(資料)IMF、Bloomberg L.P.をもとに日本総研作成。  
(注)ドルベースの名目GDP上位40カ国を抽出。ただし、米国は除外し、ユーロ加盟国はユーロ圏として合算。実績値は2012年1~4月の平均値。



(資料)OECD、Bloomberg L.P.をもとに日本総研作成。  
(注)OECD加盟国。ただし、米国は除外し、ユーロ加盟国はユーロ圏として合算。実績値は2012年1~4月の平均値。

ドル円、ユーロ相場の見通し

【ドル円】 80円を挟んだ円高値圏での推移が長期化する見通し。

【ユーロ】 短期的にはユーロが上振れしやすい地合いながら、ユーロ安基調に変化はない見通し。

＜ドル円相場の見通し＞

欧州債務問題に対する過度な不安が後退し、リスク回避の動きが和らぐなか、ドルが底堅く推移する見通し。今後も欧州債務問題の再燃に伴い、円高圧力が強まる局面があるとみられるものの、①堅調な企業部門等に支えられた米国景気の緩やかな回復基調維持、②わが国貿易収支の赤字基調継続、③わが国通貨当局の円高回避に向けた強い姿勢、等から、一方的な円高進行の公算は小。

もっとも、米国では2013年入り以降の財政赤字削減等により、米国景気の回復の足取りが緩慢にとどまるとみられるなか、FRBによる超低金利政策の長期化が予想され、大幅なドル高進行も期待薄。この結果、80円を挟んだ円高値圏での推移が長期化する見通し。

2013年春以降、米国景気の下振れリスクが後退してくれば、ドルが上振れしやすい地合いに。

＜ユーロ相場の見通し＞

ギリシャの再選挙を経て、ギリシャのユーロ離脱が回避されたほか、6月末のEU首脳会議で債務問題への対応策が進展したこと等を受け、債務問題に対する過度な不安が薄らいでおり、短期的にはユーロが上振れしやすい地合い。

もっとも、ユーロ圏景気の悪化が続くほか、債務問題の抜本的な解決が容易でないなか、今後も債務問題への不安が断続的に高まることが予想されることから、ユーロ安基調に変化はない見通し。ユーロの本格的な上昇には、EUやユーロ圏各国が財政統合に向けて前進していくと同時に、南欧諸国の景気悪化に歯止めがかかる必要。

ドル円相場見通し

	2012年			2013年	
	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6
期中平均	80.1	80.0	80.5	80.5	81.0
(高値)	83.3	84	84	85	86
レンジ	5	5	5	5	5
(安値)	77.7	77	77	77	77

予測

ユーロ円相場見通し

	2012年			2013年	
	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6
期中平均	103.0	101	100	99	99
(高値)	111.1	107	106	105	105
レンジ	5	5	5	5	5
(安値)	95.6	95	94	93	93

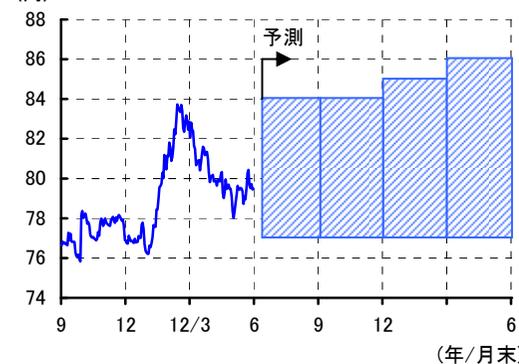
予測

ユーロドル相場見通し

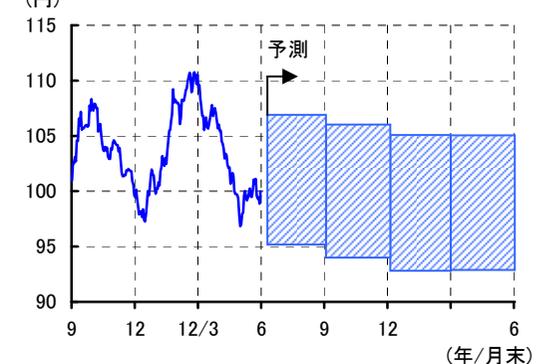
	(ドル)				
期中平均	1.28	1.26	1.24	1.23	1.22
(高値)	1.34	1.33	1.31	1.30	1.29
レンジ	5	5	5	5	5
(安値)	1.23	1.19	1.17	1.16	1.15

予測

ドル円相場見通し



ユーロ円相場見通し



(株)日本総合研究所 為替相場展望 2012年7月

内外市場データ（月中平均）

	短期金利		ユーロ円(TIBOR)		円・円スワップ			国債 10年物 (%)	プライムレート		為替相場		日経平均 株価 (円)	米国市場				欧州市場	
	公定歩合 (%)	無担0/N (%)	3カ月 (%)	6カ月 (%)	2年 (%)	5年 (%)	10年 (%)		短期 (%)	長期 (%)	¥/\$	¥/Eur		F F 0/N	1-03カ月	10年国債	N Y ダウ 工業株	1-03カ月	10年国債
09/1	0.30	0.120	0.73	0.78	0.75	0.94	1.26	1.25	1.475	2.25	90.41	119.68	8331.49	0.15	1.73	2.47	8396.20	2.45	3.09
09/2	0.30	0.111	0.71	0.77	0.72	0.89	1.19	1.29	1.475	2.25	92.50	118.33	7694.78	0.22	1.65	2.85	7749.01	1.96	3.17
09/3	0.30	0.100	0.68	0.75	0.74	0.91	1.25	1.30	1.475	2.25	97.87	127.44	7764.58	0.18	1.62	2.80	7235.47	1.63	3.06
09/4	0.30	0.104	0.62	0.72	0.75	0.99	1.39	1.44	1.475	2.30	99.00	130.50	8767.96	0.15	1.49	2.90	7992.12	1.42	3.19
09/5	0.30	0.102	0.58	0.70	0.69	0.94	1.36	1.44	1.475	2.10	96.30	131.92	9304.43	0.17	1.23	3.30	8398.37	1.28	3.42
09/6	0.30	0.104	0.56	0.68	0.68	0.92	1.41	1.47	1.475	2.10	96.52	135.46	9810.31	0.21	1.07	3.70	8593.00	1.23	3.55
09/7	0.30	0.102	0.56	0.67	0.62	0.86	1.37	1.34	1.475	1.90	94.50	133.00	9691.12	0.16	0.91	3.53	8679.75	0.95	3.36
09/8	0.30	0.106	0.55	0.66	0.60	0.88	1.46	1.37	1.475	1.95	94.84	135.40	10430.35	0.16	0.69	3.57	9375.06	0.83	3.33
09/9	0.30	0.102	0.53	0.65	0.56	0.83	1.41	1.31	1.475	1.80	91.49	132.80	10302.87	0.15	0.53	3.39	9634.97	0.73	3.29
09/10	0.30	0.106	0.53	0.64	0.58	0.86	1.47	1.33	1.475	1.70	90.29	133.87	10066.24	0.12	0.49	3.36	9857.34	0.69	3.23
09/11	0.30	0.105	0.52	0.63	0.56	0.83	1.48	1.35	1.475	1.85	89.19	132.98	9640.99	0.12	0.25	3.38	10227.55	0.67	3.28
09/12	0.30	0.101	0.47	0.59	0.48	0.71	1.39	1.26	1.475	1.65	89.55	130.95	10169.01	0.12	0.25	3.59	10433.44	0.67	3.23
10/1	0.30	0.096	0.45	0.57	0.48	0.72	1.42	1.33	1.475	1.65	91.16	130.30	10661.62	0.12	0.24	3.71	10471.24	0.63	3.29
10/2	0.30	0.101	0.44	0.56	0.47	0.72	1.41	1.33	1.475	1.65	90.28	123.58	10175.13	0.13	0.23	3.68	10214.51	0.60	3.19
10/3	0.30	0.097	0.44	0.55	0.46	0.71	1.40	1.34	1.475	1.60	90.52	122.96	10671.49	0.16	0.23	3.71	10677.52	0.59	3.13
10/4	0.30	0.093	0.41	0.52	0.47	0.72	1.40	1.35	1.475	1.65	93.38	125.57	11139.77	0.20	0.25	3.82	11052.15	0.59	3.09
10/5	0.30	0.091	0.39	0.50	0.48	0.69	1.34	1.27	1.475	1.60	91.74	114.68	10103.98	0.20	0.36	3.40	10500.19	0.63	2.80
10/6	0.30	0.095	0.39	0.50	0.47	0.65	1.27	1.20	1.475	1.45	90.92	110.99	9786.05	0.18	0.45	3.19	10159.25	0.66	2.63
10/7	0.30	0.094	0.37	0.49	0.45	0.59	1.16	1.09	1.475	1.45	87.72	111.81	9456.84	0.18	0.43	2.98	10222.24	0.79	2.65
10/8	0.30	0.095	0.37	0.49	0.43	0.54	1.04	0.98	1.475	1.45	85.47	110.36	9268.24	0.19	0.35	2.68	10350.40	0.83	2.37
10/9	0.30	0.090	0.36	0.47	0.41	0.55	1.13	1.06	1.475	1.45	84.38	109.94	9346.72	0.20	0.31	2.64	10598.07	0.83	2.34
10/10	0.30	0.091	0.34	0.45	0.38	0.47	0.97	0.89	1.475	1.30	81.87	113.65	9455.09	0.19	0.29	2.51	11044.49	0.94	2.37
10/11	0.30	0.091	0.34	0.45	0.40	0.55	1.12	1.05	1.475	1.40	82.48	112.64	9797.18	0.20	0.29	2.75	11198.31	0.98	2.56
10/12	0.30	0.087	0.34	0.45	0.41	0.64	1.27	1.19	1.475	1.60	83.41	110.28	10254.46	0.18	0.29	3.28	11465.26	0.95	2.96
11/1	0.30	0.085	0.34	0.45	0.41	0.64	1.27	1.21	1.475	1.50	82.63	110.53	10449.53	0.17	0.29	3.36	11802.37	0.95	3.05
11/2	0.30	0.093	0.34	0.45	0.43	0.71	1.34	1.28	1.475	1.65	82.53	112.70	10622.27	0.16	0.31	3.56	12190.00	1.04	3.23
11/3	0.30	0.085	0.34	0.45	0.40	0.64	1.29	1.25	1.475	1.60	81.79	114.48	9852.45	0.14	0.31	3.40	12081.48	1.13	3.25
11/4	0.30	0.062	0.33	0.44	0.39	0.65	1.32	1.27	1.475	1.70	83.35	120.34	9644.63	0.10	0.27	3.43	12434.88	1.27	3.35
11/5	0.30	0.069	0.33	0.44	0.37	0.56	1.19	1.14	1.475	1.55	81.23	116.03	9650.78	0.09	0.26	3.15	12579.99	1.38	3.11
11/6	0.30	0.069	0.33	0.44	0.37	0.54	1.15	1.13	1.475	1.50	80.51	115.82	9541.53	0.09	0.24	2.99	12097.31	1.43	2.97
11/7	0.30	0.073	0.33	0.44	0.37	0.53	1.13	1.11	1.475	1.50	79.47	113.52	9996.68	0.07	0.22	2.98	12515.68	1.54	2.78
11/8	0.30	0.081	0.33	0.44	0.33	0.46	1.03	1.02	1.475	1.35	77.22	110.62	9072.94	0.10	0.26	2.29	11326.62	1.50	2.25
11/9	0.30	0.080	0.33	0.43	0.34	0.46	1.00	1.00	1.475	1.40	76.84	105.89	8695.42	0.08	0.31	1.96	11175.45	1.48	1.87
11/10	0.30	0.081	0.33	0.43	0.35	0.47	1.01	1.01	1.475	1.40	76.77	105.24	8733.56	0.07	0.36	2.13	11515.93	1.51	2.04
11/11	0.30	0.073	0.31	0.41	0.35	0.45	0.95	0.94	1.475	1.40	77.54	105.05	8506.11	0.08	0.36	2.00	11804.33	1.43	1.95
11/12	0.30	0.078	0.33	0.43	0.38	0.49	1.00	1.00	1.475	1.40	77.85	102.54	8505.99	0.07	0.37	1.97	12075.68	1.36	1.99
12/1	0.30	0.081	0.33	0.43	0.37	0.47	0.98	0.97	1.475	1.40	76.97	99.35	8616.71	0.08	0.35	1.94	12550.89	1.16	1.86
12/2	0.30	0.085	0.33	0.44	0.35	0.46	0.98	0.96	1.475	1.40	78.45	103.85	9242.33	0.11	0.32	1.96	12889.05	0.98	1.90
12/3	0.30	0.084	0.33	0.44	0.35	0.48	1.04	1.00	1.475	1.35	82.43	108.83	9962.35	0.13	0.30	2.16	13079.47	0.76	1.88
12/4	0.30	0.084	0.33	0.44	0.35	0.46	0.98	0.95	1.475	1.35	81.49	107.14	9627.42	0.15	0.31	2.03	13030.75	0.66	1.73
12/5	0.30	0.084	0.33	0.44	0.35	0.43	0.89	0.85	1.475	1.35	79.70	101.95	8842.54	0.16	0.28	1.78	12721.08	0.61	1.46
12/6	0.30	0.076	0.33	0.44	0.34	0.41	0.85	0.83	1.475	1.35	79.32	99.39	8638.08	0.06	0.28	0.61	12544.90	0.57	1.43

(注) 公定歩合とプライムレートは月末値。